



八学大アイスホッケー部の男子部員に交じって練習する近藤さん(左)とフィールドさん。「看護師になって就職してからもできる限り競技を続けたい」と語る＝フラット八戸

# 看護師の勉強 IH選手両立

近藤さん フィールドさん

女子「クリスタルブレイズ」所属

地元・八学大で活躍誓う

## 八戸

八戸市のアイスホッケー女子チーム「クリスタルブレイズ」で、主力として活躍する近藤琴巴さん(19)＝同市北稜中・八戸商業高出＝とフィールド碧海さん(19)＝おいらせ町木ノ下中・八戸聖ウルスラ学院高出＝は、ともに八戸学院大で看護を学ぶ学生でもある。看護師を目指しながら、大好きなアイスホッケーを続けたい―と地元進学を決断した2人。大学の授業や実習などの合間を縫って氷上練習に取り組み、全日本大会での上位進出を目指す。

(千葉真由美)

近藤さんは8歳から、らアイスホッケーを始め、フィールドさんは4歳から、中学からは同市の女子

子チーム「八戸レッズ」に所属。部員減少に伴い

同チームが一時活動を休止したため、2019年に発足したクリスタルブレイズに移籍した。

八学大に入学を決めた理由について近藤さんは「1人暮らしをするとならなくて、勉強と競技に専念できるよつ、親元から通える大学を選んだ」と説明する。フィールドさんは「高校の時に県外進学も考えたが、1学年上の近藤さんが同大で競技を続け

ていると知り、後に続いた。「ジュニア時代にお世話になったコーチに今もアドバイスをもらえている。県内にいることが結果的に自分の成長につながっている」と実感している。

現在、近藤さんは同大看護学科2年生、フィールドさんは同1年生。週

の大半は同大アイスホッケー部の練習に参加し、男子部員に交じってフィジカルの強化に取り組む。今月11、12日に同市で開かれた東北女子大会にそろって出場、クリスタルブレイズの3連覇に貢献した。

八戸市内ではここ数年でアイスホッケーの公式戦に出場可能な女子チームが三つに増え、女子選手の活動の場が広がった。近藤さんは「看護の勉強と競技が両立できることを証明したい」、フィールドさんは「自分のレベルアップはもちろ

ん、年下の子たちが上達するための土台づくりがしたい」と目標を語り、女子の裾野拡大も視野に入れる。